



ほしぞら通信

2023年
06月号

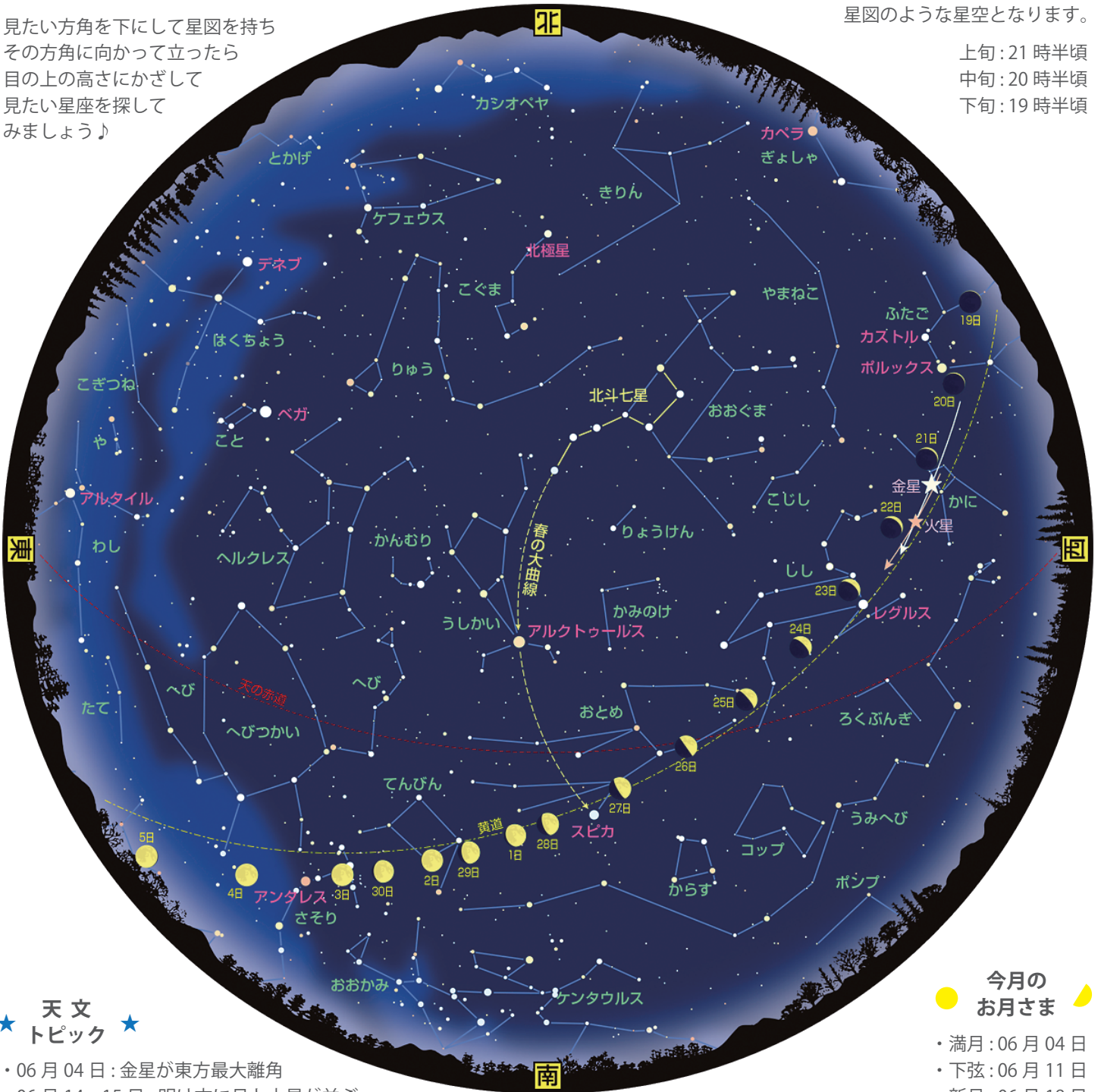


● 星図資料提供 : アストロアーツ

見たい方角を下にして星図を持ち
その方角に向かって立ったら
目の上の高さにかざして
見たい星座を探して
みましょう♪

福岡ではおおよそ以下の時間に
星図のような星空となります。

上旬 : 21 時半頃
中旬 : 20 時半頃
下旬 : 19 時半頃



★ 天文 トピック ★

- ・ 06 月 04 日 : 金星が東方最大離角
- ・ 06 月 14~15 日 : 明け方に月と木星が並ぶ
- ・ 06 月 22 日 : 夕方に細い月と金星と火星の三角形

● 今月の お月さま

- ・ 満月 : 06 月 04 日
- ・ 下弦 : 06 月 11 日
- ・ 新月 : 06 月 18 日
- ・ 上弦 : 06 月 26 日

【06 月の満月】ストロベリームーン (苺月)

★ 星の歳時記 ★

6 月に入るとすぐに、二十四節気の「芒種」がやってきます。稲の種を撒くのに良い時期という意味だそうで、ちょうどこの頃に麦畑が水田に変身していく糸島の風景を目にする私たちには、とても納得できますよね。

二十四節気はひと月に二つ巡ってきますが、6 月のもう一つはというと、よく耳にする「夏至」。今年は 6 月 21 日で、ご存じの通り一年のうちで一番昼の時間が長い一日です。日の出から日没までの時間は福岡が 14 時間 24 分、東京で 14 時間 35 分、北海道の札幌では 15 時間 23 分と計算されています。日本の南北で 1 時間以上も違うのですね。しかし長い一日と言っても、ちょうど梅雨の時期のせい、あまりそれを実感することはないと思いませんか？



さて、暦の上での夏至はお話してきたように「一日」ですが、天文学での夏至は、地球から見た太陽の位置が一番北側に来たその「瞬間」のことを言い、その一日のことは「夏至日 (げしび)」と呼んで区別します。

暦の「夏至」を思いついた人達は日々の暮らしの中で宇宙のリズムに気が付いていたわけで、瞬間をはじき出せる現代の私たちも、その知恵を素晴らしいと認めざるを得ませんね。科学は観察することから始まるものですが、その良い一例だと思います。

見るなら
今でしょ!!

宵の明星「金星」が夕方の空で明るく輝いています。今月は今年一番の見頃です。金星は6月4日に太陽の東に45度ほど離れて、日没時に地平線から40度近くまで高くなります。西の地平線に沈むのも午後10時過ぎとなり、ゆっくりと眺めることができます。今月は-4.3等、来月7月には-4.5等にまで明るくなります。



資料提供：アストロアーツ

地球より太陽に近い軌道を回っている金星は、月と同じように満ち欠けするように見えます。この時期は小さな望遠鏡でも「半月」の形をした姿を見ることができます。

ところで、金星はなぜ明るく輝いているのでしょうか？それは、金星が地球と同じように大気を持っていて、表面の雲が太陽の光をよく反射しているからです。しかしながら、金星の大気は地球の大気と大きく違います。地表面では90気圧（地球の海では900mの深さの水圧に匹敵します。）もあり、大気の大部分を占める二酸化炭素の温室効果で、気温はなんと470℃にも達し、金属の鉛でさえ溶けてしまいます。

金星はその美しい輝きから、美の女神「Venus(ビーナス)」と呼ばれますが、



本当は過酷な環境の惑星なのです。はたして将来、人が住めるようになるのでしょうか？

星乃 ★★
よもやま ★★
ばなし ★★

『夜空の「?」』
春の星座、しし座も6月に入ると西の空に移動しています。
そのしし座の頭の部分、「?」マークをひっくり返したような星の集まりは、ししの大鎌と言われていますが、日本では雨どいをかけるフックに似ていることから「樋かけ星(といかけぼし)」と呼ばれています。
昔の人は、この樋かけ星が西に傾いてくると梅雨がやってくるといわれていたようです。何千年も前から、人は星の見える時期や位置を目安に生活していました。
現代では、もうそんな習慣はありませんが、夜空を見上げると今も昔と変わらない星空が広がっています。
時代を超えて同じ星を見ていると思うと宇宙の広大さと浪漫を感じます☆
梅雨に入ってしまうと、星空を眺めることが難しくなっていますが、晴れ間にはスッキリと澄んだ星空が見えてくるはず。春の星座から夏の星座へ変わって行くこの時期、チャンスを逃さずキラキラと輝く星座を見つけてみてください。

ヒトリ ★★
ゴト ★★

私の家の近くにある小学校の裏手には、田んぼと小川があります。
5月末から6月初旬になると、そこで蛍をみる事が出来ます。
結構飛んでいて、散歩がてら見に行くのを毎年楽しみにしています。
数年前にカメラを購入して星の写真を撮り始めた頃、星仲間に「蛍の写真は星を撮るときと同じ設定で撮れる」という事を教えてもらいました。
教えてもらった様に撮ってみると、なるほど…確かに！同じように撮っていても星空とはまた違った楽しさがあり暗闇に映る蛍の軌跡がとても綺麗です。
糸島は案外身近なところで蛍を見ることが出来ます。観望会に来られた時には、ぜひ星が見えるスポットと一緒に蛍が見られるスポットも星ナビさんに尋ねてみてはいかがでしょうか(^_^)☆ yoshimaenon

とゴンマークの「天文台号」が目印ですよ〜♪

定例観望会開催のお知らせ

開催予定日 << 要予約 >>
06月24日(土)・07月22日(土)

開催場所
志摩中央公園グラウンド(糸島市志摩初)

※ 雨・天候不良時は中止となります。
当日の天候によって開催状況が変わる可能性があるため、当日17時までにホームページ・Instagram・Facebookでお知らせします。確認いただきご来場をお願いします。

お問い合わせ・お申し込み

● 平日(08:30~17:15) ● ● 観望会当日(14:00~21:00) ●

糸島市生涯学習課 星空ナビゲーター携帯
092-332-2092 080-8050-8609
↑ご予約はこちらへ ↑当日問い合わせはこちらへ↑

こちらで情報を発信しております。何かお問い合わせがありましたら、メッセージ等でお問い合わせください。

ホームページ



いしまた天文台 検索

Instagram



ITOSHIMA.TENMONDAI

Facebook



いしまた天文台

★編集後記★ 早いものでもう6月。陽が沈んだ後、南東の低い空に明るい赤い星が…。さそり座の一等星アンタレスが南東の空に見える始めると、夏が近づいてきたなあと感じます。色々なことが緩和され、やっと活発に星活動ができるようになりました。出前講座の申込みも増えてきて、これからどんどん忙しくなりそうですが、新しい試みや恒例の夏イベントなどを企画しながらワクワクしています。皆さんにお会いできるのを楽しみにしています♪

